



9条世界会議で話し合われた 戦争のない世界へ!

昨年(2008)の5月、千葉(幕張メッセ)、仙台、大阪、広島(4ヶ所)で9条世界会議が開催されました。5月3日～5日の3日間で予想を超える3万人以上の人たちが参加されました。日本の市民社会がもつ「9条の底力」が発揮された出来事でした。

9条世界会議はまた、世界の平和運動の新しい扉を開きました。海外からは41ヶ国・地域から約200名が参加しました。ノーベル平和賞受賞女性の会が賛同し、国連の現職部長がメッセージを寄せてきました。会議の宣言や声明は世界の指導者に届けられ、参加者らは感動にそれぞれ職場に戻りました。

戦争を廃絶させるための9条世界宣言

日本国憲法9条は、戦争を放棄し、国際紛争解決の手段として武力による威嚇や武力行使を定めているとともに、軍隊や戦力の保持を禁止している。

このような9条は、単なる日本だけの法規でない。それは、国際平和とメカニズムとして機能し、世界の平和を保つために他の国々にも取り入れることができるものである。9条世界会議は、戦争の廃絶をめざして、9条を人類の共有財産として支持する国際運動をつくりあげ、武力によらない平和を地球規模で呼びかける。

〔提言13〕

日本の憲法9条やコスタリカ憲法12条のような平和条項を憲法に盛り込むことなどを通じて、戦争および、国際紛争解決のための武力による威嚇と武力の行使を放棄する。

富士市内各地で鑑賞会

9条世界会議には、富士市内からバスで43名の方が参加されました。この会議の記録は、本やビデオに記録されています。8月から今まで市内で10回の鑑賞会を開き、100名以上の人に見ていただきました。



家族・知り合いの人に声をかけ参加しましょう!

憲法9条を守り・生かし・広げよう!
9条世界会議DVD鑑賞会

○とき 4月25日(土)

13時30分～16時

○ところ ラ・ホール富士

○内容

※13時10分より前半を上映しています

ダイジェスト映像(20分)

シンポジウム (80分)

世界の紛争と非暴力 核時代と9条

アジアの中の9条 環境と平和をつなぐ

平和を創る女性パワー 9条の危機と未来

▲良知勝平さんの話し

ピースボートで世界を巡って

世界で初めての大学設立博物館 立命館国際平和ミュージアム



1992年、立命館大学の教学理念『平和と民主主義』を具体化するとともに、同大学が蓄積してきた平和教育・平和研究を発展させるために設立されました。入場口の手塚治虫の漫画作品から『火の鳥』のレリーフと『わだつみ像』が設置されています。大学では太平洋戦争の開戦日になる12月8日に、わだつみ像の前に集まって『不戦のつどい』と呼ばれる集会が行われます。

「十五年戦争」と「現代の戦争」をテーマとして、戦時下の日本の生活の復元、アメリカ軍が計画していたとされる京都市への原爆投下シュミレーションや冷戦を含む現代の戦争と平和の努力の資料が常設展示されています。2007年「国際メディア資料室」と「平和をもとめて」をテーマとする展示室が増設され、「無言館」などがあります。京都に来た修学旅行生も訪れています。

「わだつみ像」に出会えた

加藤久延

一月一七日、富士市民劇場の京都南座「出雲の阿国」観劇ツアーに参加してホテルに着いたのが、一時半、開演は四時、さて何をしようかと迷っている時、伊藤さんに立命館の平和ミュージアムに行こうと誘われた。「立命館？もしやわだつみの像に会えるかも」早速タクシーに同乗して出かけた。「国際平和ミュージアム」の玄関に入ってすぐ右の階段があった！昔写真で何回もお目にかかったわだつみの像が両手を胸の前に挙げ身悶えして立っていた。

五十数年前、私は学生で「わだつみ会」に入会していた。わだつみの像は反戦の象徴であり、会の象徴であった。だから当時、東大がこの像の建立を拒否したことに私は怒り、立命館大の末川博総長が引き受けたことに拍手をおくった。なぜ東大が拒否したのか。

「きけわだつみのこえ」という本を知っていますか。この本は一九四九年東大協同出版部が出した本で、学業半ば戦争に駆り出され戦死した学生の手記を集めたものです。「わだつみ」とは海の神様のこと。題名は、

なげけるかいかれるか はたもだせるか

きけ はてしなき わだつみのこえ

から採ったもの。像は本郷新がこの想いを具象化して一九五〇年に創作したもので、初め東大構内に建てようとしたが「裸の像は建てたことがない」というのが拒否の理由だった。東大には美術を解する人はいなかった？

実はこの裏には次のような理由があった。一九五〇年という年はどういふ年かご存じだろうか。日本はまだ占領下で朝鮮戦争が始まった年だ。進駐軍の意向は絶対で、レッドパージが行われ、のちに自衛隊になる警察予備隊ができた年だ。アメリカでは例のマッカーシー旋風が吹き荒れたのもこの年だった。東大はこの反動の嵐に抗することができなかったのだと思う。

次ページへつづく

ピースボート世界一周の旅に参加して

ピースボートとは？

ピースボートは「あなたと私の斬新な発想、ともに作るクルーズ」をスローガンに集まった好奇心と行動力がある若者が、大型客船をチャーターして、アジアはもちろん世界各地へのクルーズを企画しているNPOです。地球市民のネットワークを目標に、1983年から今年まで21回のクルーズを企画、80ヶ国以上の世界の港を訪問しました。今まで乗船した人もべ10,000名を超えるほどです。

良知さんは、昨年5月開催された9条世界会議に富士から参加され、その1週間後ピースボートで世界を巡ってきました。



5月14日横浜港出港→シンガポール→エジプト→スペイン→ノルウェー→グリーンランド→ニューヨーク→パナマ→グアテマラ→バンクーバー→アラスカ→9月4日横浜港帰港

船内の日常生活

次の寄港地まで、「水先案内人」(ジャーナリスト、カメラマン、画家などで平和に関心を持つ有名なひとたち)の講演があったり、また、乗客仲間がサークルを作って申請した自主企画などあって、参加します。客の年齢は中学一年から99歳までと大変幅が広いです。

水先案内人

ピースボートには、各分野で活躍している人たちが、途中から乗船して講演したり、日常生活は乗客と一緒に過ごし、食事のときやデッキで講演の質問を受けたり、雑談を楽しみました。印象に残ったのはエベレスト女性初登頂の田部井淳子さん、ベトナムで「夕鶴」を公演した演出家の由布木一平さん、彼は二ヶ月間朗読劇を指導してくれ、最後の発表会は大変盛り上がった。アイヌの伝統舞踊、歌などの伝承・普及に努めている酒井美直さん。「人と自然の共生」がモットーの世界遺産運動に携わり、その保護啓蒙に努めている城戸一夫さんなど。

海外から見た憲法9条

アイスランドでは舞台でピースボートの若者が20人ほどで力強い9条ダンスを披露しました。その後、現地の市長の挨拶があり、「日本の憲法9条は世界に類のない素晴らしい憲法です」と話されました。「活憲の時代」の中で、私の印象に残っているのはアフリカ沖の島カナリー諸島には「ヒロシマ・ナガサキの広場」があります。これは当時の市長が平和で頭に浮かんだのが日本の憲法9条であり、石碑に憲法9条の条文を書き入れ広場にたてたとのこと。三島市 良知勝平

(前ページより)

さらに一九五三年、京都に運ばれた像は、警察官に阻止され、学生が負傷するという事件もあり、わだつみの像が幾多の受難を経て今ここに落ち着いた姿を佇立しているのは、戦後の平和運動の歴史の姿を如実に表しているように思われる。平和ミュージアムは一五年戦争の惨禍と現代の戦争の実態、さらに平和創造まで豊富な資料がテーマ別に展示されていて、ゆっくり見れたかったが時間に追われ、思い残して帰ってきた。この構内に長野の無言館の分室もあったことは後で知った。ちなみにこの「立命館大学平和ミュージアム」初代館長は全国九条の会の呼びかけ人で昨年一二月五日に亡くなわれた加藤周一さんです。

映画の力で平和憲法を生かそう

日本の青空 ~いのち輝く里

大澤 豊監督語る

岩手県の寒村“沢内村”は「自分たちの命を守った村であり、深沢晟雄村長のリーダーシップのもとに、村民総ぐるみで半ば諦めていた“豪雪・多病・貧困”という三悪に立ち向かい、見事に克服した村である。

人間の生命に格差があつてはならないと、だれもが「健やかに生まれ、育ち、老いる」理念を持った“生命行政”に徹した深澤村政は、全国の自治体で初めて60歳以上の村民と乳児の医療費を無料化し、やがて全国初の乳児死亡率“ゼロ”の偉業を達成する。

いま、多くの国民が怒り、廃止を求めている「後期高齢者医療制度」が、いかに非人間的な老人いじめの制度であるかが判るような、同時に、国民の生存権を保証している憲法25条の輝きが増すような映画にしたいと思っている。

富士での上映取組み

1月26日、静岡市で『映画日本の青空II』を支援する静岡の会・結成式が行われました。当日は大澤 豊監督もお越しいただき、映画上映について意見交換が行われました。2月から撮影が開始され、完成は6月の予定です。

前回富士では「日本の青空を上映する会」が主催で取り組んできました。今回の「日本の青空II」については「上映する会」が母体となり、各団体等に協力していただくようにしたいと思えます。特に、医療・福祉関係の方に参加願いたいと思えます。

4月に入ったら「上映する会」を再開し上映日時・会場等決めていきたいと思えますのでご協力いただける方はお申ししてください。

ジェームス三木さんの富士宮での講演

とき 4月29日(水)

13時30分開会

ところ 富士宮市民文化会館

講演 「憲法と私」

参加費 500円

希望者は事務局へお申しください

【主な作品】

映画 「さらば夏の光よ」

「ふりむけば愛」

「善人の条件」

舞台 「翼をください」

「真珠の首飾り」

「つばめ」「坊ちゃん」

小説 「八代将軍吉宗」

「憲法はまだか」

世話人会のお知らせ

○とき 5月20日(水)

① 14時00分～16時00分

コープしずおか中島店

② 18時30分～20時30分

ラ・ホール富士

○内容 「日本の青空II」・総会・戦争展など

ニュース26号の原稿を4月30日までにお寄せ下さい

NHK クローズアップ現代

『生命を賭けた対論～

沢内病院の苦悩』

1992年度製作

沢内村の深沢晟雄村長が活躍されたのは50年も前のことです。テレビで放映されたり、本も出版されています。平和を守ることと人間の生存とは密接な関係あります。「日本の青空」の上映前に各地域や職場で、鑑賞会のできる場所は計画して下さい。もし、日時・場所が決まりましたら事務局にご連絡ください。